



(写真左) 寄付金番付表  
 (写真上) 昭和58年(1983年)入社当時に、お客様と滋賀県伊香郡高月町の国宝「十一面観音像」が所蔵してある「渡岸寺」で撮影。中央が当時の社長(亡父)、右端が筆者。

# 我が人生の転機

大塚 良彦

大塚産業クリエイツ 取締役社長

この写真は、昭和58年4月に復興された長浜城の歴史博物館(滋賀県長浜市)、開館記念として展示されたもので、私の人生の転機となったものです。

これは、「安政三丙辰年上金銘数長者競」とありますが、長浜商人の彦根井伊藩への寄付金番付表です。江戸時代の番付は大関が最高位で、その上に勸進元、頭取と

あります。さて、ナゼこれが転機となったかと申しますと、それ迄の私は恥ずかしながら、当社が何を作っているのか定か

いようものがありませんでした。この番付表では、当社の先祖、保多屋吉兵衛の名が勸進元として、頭取に次ぐ350両を寄進したと記されています。この年は、有名な井伊直弼大老による安政の大獄の2年前

でありました。さて、興味ありませんでした。父は、昔気質の人で、私の幼い頃から家では仕事の話は一切しませんでした。その当時勤めていた商社では、私にニューヨーク転勤の話が持ち上がり、それを知った父が急に「帰ってきて欲しい」と要請した時に見せられた写真です。その時初めて、18世紀の初頭に麻蚊帳で創業し、連綿と事業を繋いで来たことを知りました。そして、「今後300年続けていく為には、お前の力が必要だ」と言われた時に、ニューヨークに行く気満々だった気持ちが180度変わって

しまったのでした。当社が創業した当時は、紀伊国屋文左衛門という有名な商人が活躍しておりましたが、一代で滅びました。片や当社は、細々とはいえ現在まで脈々と続いております。その違いは何であつたのか？事業が続くということは、自分たちの力で続くというよりは、周りの人々に「その存在が必要だ」と生かされて来た力の方が大きいのではないかと思います。即ち事業の目的を「多くの人々のお役に立つこと」に置いて来たからではないかと考えます。



私の思い出館

私 思 写 の い 真 館